

日本倶楽部会報

平成 27 年 1 月 第 3 号

新春座談会

開催日：平成 26 年 1 月 2 日（火）午後 2 時開始
座談会出席者：石原信雄会長、奥野誠亮元会長、野村銀市副会長、北原歌子会員
司会：中田一男広報委員長

中田広報委員長

本日は新春の会報に掲載いたしたく、ご多忙の中、新春座談会にご出席頂き有難うございました。進行役を務めさせていただきます広報委員長の中田でございます。

それでは本日の進行についてご説明させていただきます。まず、話題として 3 つの項目で進めて行きたいと思います。1 つ目の項目は、過ぎ去ったこの 1 年のご感想を何でも結構ですでお聞かせ下さい。2 つ目の項目は、皆様と日本倶楽部のご縁について、お聞かせ下さい。3 つ目の項目は、新年の抱負をお聞かせ下さい。

最初の話題ですが、この 1 年どのような年でありましたか、石原会長よりお聞かせ下さい。



石原会長

この季節になりますと、よく聞かれる話題ですが、経済の面ですとアベノミクスの本番を迎え、新年から出だしは順調だったと思いますが、4 月の消費税率引き上げは当然予想されたことですが、反動的な減が思ったよりキツかったという感想です。その為に来年 10 月からの更なる消費税率引き上げが 1 年半延期になったとのことの是非を巡って、衆議院議員の解散総選挙が行われることになりました。

しかし私は、全体として長く続いたデフレから漸く抜け出し、また雇用情勢も良い方向に向かっており、物価が上がったとか、格差等がありますが、それでは前の方が良かったのかというと、そうでもないと思います。私は、過ぎたる面では、まあまあだと思います。それから 1 つ感ずるもので、西洋型の民主主義を世界に広げる感がありますが、どうもそれはアラブ世界では、このまま続くことが出来ないのではないか、また、無理押しすると逆効果ではないかと強く感じます。いま、述べましたイスラム国が出てきたということは、やはりイスラムの世界に西洋の民主主義をすぐ根付かせようとするのは無理があるのではないかと、それぞれの地域の歴史、宗教、民族性を見ながら徐々に民主化を進めて行くべきではないかと感じています。

中田広報委員長

有難うございました。それでは奥野元会長にお願いいたします。



奥野元会長

今の安倍内閣は 2 回目の組閣をしたわけですが、安倍内閣が言い出した「古い日本をとりもどす。強い日本をつくる。」私は良い言葉だと思っています。安倍総理はその言葉通り努力をしています。

古い日本は礼儀正しい国でしたよ。感謝の気持ちを失わなかった。今、新しい日本をつくる国を思う心が無くなってしまった。やはりこの国を大事にする根性が国民の間になければならないこと、その 2 つが段々と戻って来たのではないかなと思います。これは大変私にとって嬉しいことだと思っています。やはり、昔は武士道というものが、そういう事に役立つのだと思いますが、礼儀正しい国でした。そして感謝の気持ちを失わなかったのです。また、中国の影響を受けて、政治家のみならず経済界まで臆していましたが、安倍総理が頑張っているの、徐々に影響はなくなって来ていると思います。そういう意味で日本に明るさが見えてきたのではないかと。1 年毎に内閣が変わるようでは、日本は滅びてしまいます。安倍総理にはあと数年頑張って頂かないと感じ、この選挙に期待しています。

中田広報委員長

有難うございました。それでは野村副会長にお願い致します。



野村副会長

この 2014 年という年は気候変動の関係もあったのだと思いますが、日本では広島県の土石流、長野県の御嶽山の噴火もあつたりして災害があらためて大きくなったという面がありまして、そういう点では今後の日本列島はなかなか大変だと思います。

しかし、私は、この 2014 年で非常に嬉しかったことは、LED で、ノーベル賞の物理学賞を 3 人の日本人の物理学者が受賞されたことは、大変嬉しいことで、や

はり、日本文化のレベルが高いということの、一つの現れだと思えます。

日本はこれから文化国家としてますます発展して行くと思えます。また、日本倶楽部でも、12月にはノーベル賞の山中先生が講演会に来て頂いて、お話をさせて頂くこともあり、これからも日本倶楽部においても、会員の皆様にも、文化に関係の深い方が多くおられるので、その様なムードを上げて行くことが出来ると良いと思っています。

中田広報委員長

有難うございました。それでは北原会員にお願い致します。

北原会員

私は、自分が戦争体験者として語り部として、若い人達に告げたいということ、また、戦死された方々の無念の思いを私の口から機会あることに若い人達に伝えたい、老人ホームに行って、老人の方々と一緒に当時の事を話しながら、何を若い人達に伝えたら良いか、そういう事を1年間考えながら実際に動いてきました。



中田広報委員長

有難うございました。いま一般論としてお話を伺ったのですが、日本倶楽部との兼ね合いで、この1年はどんな感じでいらしたか、石原会長よりお伺いします。

石原会長

私は図らずも会長という重責を仰せつかって会の運営にあたらせて頂いておりますが、そもそもこの会に入った経緯を申しますと、私は旧自治省の出身で、自治省の次官を辞めた時に、私の大先輩の荻田さんが倶楽部の理事をしておりました。荻田さんより役所のOBだけでなく、法曹界、経済界の方々の集まりの会で、是非、入会して、現役時代にない視野を広げる機会があるとのお勧めがあり、入会を考えていました。しかし、官邸勤めをすることになり、官邸生活が終ってから入会させて頂いたので、入会が遅くなってしまいましたが、入会して多くの先輩や同僚の皆さんと仕事を離れてお話が出来るということで、大変良かったと思っています。

中田広報委員長

日本倶楽部に入られて、特に会長に就任されたことについてお聞かせ下さい。

石原会長

私は、会長を仰せつかってから、他の社会もそうなのですが、全体として高齢化で、会員の平均年齢が上がっているということにつれて、会員の数も減っていることは辛いと感じます。どうしたら若い世代の人達に入会して頂けないだろうか、そのことが一番気にかかりました。後で、話題になると思いますが、皆様のお知恵を拝借致しまして、伝統のある日本倶楽部ですから、何としてもこの会を守って行かねばならないと思えます。

中田広報委員長

有難うございました。それでは奥野元会長にお願い致します。

奥野元会長

私は、会員名簿を見て入会時を知りました。それは昭和38年6月と書いてありました。やはり石原さんと同じく、次官になった時、荻田さんが入会を勧めに来られたと思えます。倶楽部入会直後に国会議員なり、その

後、どうしても倶楽部に足を運ぶことが出来なくなりました。後に鈴木(俊一)さんが会長になられ、私を次の会長に推薦するために一生懸命努力しておられました。

それから私は会長に就任し、倶楽部を重んずるようになり、同時に講演会につとめて出席しておりました。毎回の講演会は大変苦勞して講師を選んでいきますよ。また時間があれば図書室を利用しています。やはり、皆様に利用される日本倶楽部にすることが大事です。私が会長の時に個人会員を増やすことも大事でしたが、法人会員を増やすことの方が効果があると思ひ、それなりに努力をして来たが、当時は良かったが今は法人会員は難しくなっているように思う。また、女性会員を増やすことにも努力した。会員数を維持して行くことが必要で、此の度の会費値上げに関しては石原さんのような発想は浮かびませんでしたよ。しかし、会費の件は正解でしたよ。また、会費免除会員(特待会員)の人にも寄付を願ったということは、思い切ったお考えで、皆で会を維持するという視点から良かったと思ひます。皆で負担する、値打ちのある倶楽部であり続けることが、お互いの努力ではないですか。

中田広報委員長

奥野会長時の会員数は横ばいでしたか。

奥野元会長

いや、減って来ていましたよ。しかし、今は減少傾向が止まってきているのではないですか。

中田広報委員長

今年の1年は入会者と退会者がほぼ同じで、お亡くなりになられた方々の会員の数だけ減っている現状です。

奥野元会長

良い倶楽部ですから皆さんの努力によって、増えて行きますよ。

中田広報委員長

どのような方に対して勧誘すれば良いか。我々が入会した時代は、役所のOBがやって来て、退官間近の私たちに「おい、入会しないか」と言われたので、入会したのですが、今の役所の人はそのような言葉になびいてこなくなりました。

奥野元会長

今はこのようなクラブは多く存在し、競争になっていますよ。やはり会員の皆さんにお願いして勧誘には足を運ばなくては増えて行きませんよ。

中田広報委員長

私達も努力するように致します。それでは野村副会長にお願い致します。

野村副会長

今のお話の通りです。会員数がずっと減り続けていますが、それに対する危機感をもって、減少を何とか食い止めて魅力ある倶楽部にしなければならないという、そういう機運が盛り上がり、石原会長の下で活性化委員会を昨年スタートして、今年の3月に報告書が提出され、そして活性化のメニューが出され、それを実行して来たわけです。その1つが会報でありまして、会報は長年の日本倶楽部の懸案でございました。

今まで会報が出来ませんでした。ところが、今度は広報委員会という委員会を新たにつくって、そこで各委員会の委員長の皆さんにも直接原稿を書いて頂くことによって、纏まったわけです。

やはり、それは1つの危機感が本当に魅力ある倶楽

部にしたいという機運が盛り上がったということで、それをこれから推進して行かなくてはならないと、私は思います。

中田広報委員長

有難うございました。北原さん、女性会員の勧誘の話もありましたが、女性会員の目から見て、北原さん自身のこの会との係わり合いについてお聞かせください。

北原会員

ここに入会させて頂いた動機というのは、日本倶楽部で詩吟の会を開催しておりまして、会員の前田光嘉先生が詩吟の会の会長をやっておられ、そこに参加させて頂いたのが入会のキッカケです。前田先生は目が不自由でほぼ目が見えない状態でした。しかしその詩吟に対する熱意を強く感じ、心を惹かれました。

私は入会の件で、事務局に問い合わせたところ、どんなお仕事に就かれ、何か役職をされましたかと聞かれました。そこで入会に対して少し不安がありましたが、前田先生にご相談したら、僕が紹介者になりますよと言われ、入会することができました。

それから日本倶楽部が凄いなと思ったのは、多くの会員の方々は叡智の塊みたいな方々で、凄く刺激を受け、この様な場所で勉強が出来ることは素晴らしいと思いました。

しかし、入会当初は男性会員から、男性社会の倶楽部に入会して違和感がありませんかと聞かれたり、女性は学歴などは関係がないなど、嫌がらせ的なことを言われたことがありました。でも、その様なことで怯んでいたのでは仲間に入れれないと思い、そこで暫く我慢したのです。

その後、倶楽部に慣れて来ましたら、ここに来るとホッとするような安心感を感じるようになりました。それに先生方の雰囲気、話題等を伺いながら、自分を伸ばしてくれそうな環境は、ここだなと思いました。

しかし、女性会員を増やそうと思うと大変だと思います。それは、ご主人がおられる方は、まず、無理ですね。それと、倶楽部に入会するモチベーションがなければ入会はしないと思います。

私は家庭裁判所に長くおりましたので調停委員とか家裁の関係者、元学長さん等には、折りがあれば倶楽部を宣伝しておりましたが、勧誘すると、「何故入るの」と、言う言葉が返って来ますね。従いまして、直接勧誘するのは無理なので、現在の会員の奥様達が集う会をつくって、倶楽部の良さを見て頂くのも1つの考えだと思います。ただし、その世話役をどのように決めるかが問題ですね。時間がかかるかも知れませんが、マイナスにはならず、プラスになると思います。

中田広報委員長

良いアイデアを出して頂き、有難うございました。本日、会員委員会が開催されましたが、会員間交流の点について他の倶楽部と比較して少ないのではないかとの話が出ましたが、どの様に会員間の交流を増やして行けば良いと思うかについてお聞かせ下さい。

石原会長

北原さんからのお話で、現在の倶楽部はほぼご主人だけです、奥様と一緒に入会されている方はおられないですね。従いまして、ご夫妻で入会して頂ければ会員同士のお付き合いが増えるのではないのでしょうか。

奥野元会長

奥さんの会費を半額にしてはどうですか？

北原会員

ご夫妻で2人分の会費を負担することは無理だと思います。奥様の会費を軽減して、倶楽部の行事等に積極的に協力して頂いても良いですね。

石原会長

現在、講演会では奥様も同伴して良いとのことですが、その様なところから家族ぐるみで参加出来るようになる、会員同士の付き合いが盛んになると思いますが、この件についても会員委員会の方で議論して頂くとは有難いですね。

野村副会長

いま、石原会長のお話にもありましたように、講演会において女性の方々に関心の深いテーマである場合には、ご夫妻同伴で聴講できるとか、食堂も同伴して頂くように、なるべく配偶者の方々が一緒に参加出来るようになるとう良いと思います。

奥野元会長

以前から、見学会は普段行けない様な場所を検討し、事務局に努力するようお願いしておりますが、その時も家族ぐるみが参加できるようにして欲しいです。例えば、新しくなった総理官邸なども良いと思いますので、検討をしていただきたい。

また、午餐会時に主賓、新入会員のみならず、当日参加の会員にも話をして頂く機会を考えたらどうか。

石原会長

最近、会員数が減って来ている。どのようにすれば良いのかということで、会の運営について魅力ある倶楽部にしなければならぬという問題意識から活性化委員会を立ち上げ、各委員会の委員長に参加して頂き、1年以上かけて議論し、先般、答申を頂きましたが、その中で大変良いアイデアがあり、実行するに当たっては予算に伴う面が多いので、なるべく費用がかからなければ実行し、会員にとって魅力が増すものは直ぐに実行する。また費用がかかるものは長期的に検討しようと言うことで、いま各委員会においてこの問題に対し、取り組んでおります。その努力が徐々に実ること願っています。

中田広報委員長

活性化委員会を設けるといっても、1つの大きなキッカケでしたが、いろいろな意見が活発に出て来て、おそらく会員の方々に刺激を与えているのではないかとこの雰囲気が続いている間に変革続けて行かなければという感じがしています。

石原会長

倶楽部内に、「御意見箱」を設置しましたが、お寄せいただいたご意見には、全て回答して行きたいです。勿論、出来るものと、出来ないものがありますが、回答をすることによって会員にとっても会の存在を身近に感じられるようにし、各委員会の委員長さんも全面的に協力して頂かないことには実現しないので、そういう方向で努力しております。

中田広報委員長

日本倶楽部の一番の特徴は、古い伝統とか会員のレベルとかがありますが、ロケーションの良さですね。日比谷で交通の便が良く、しかも皇居を見下ろせる景色があって、私も友人を連れて来ると自慢出来る位置にあります。

しかし、入会を勧めると、「何か具体的に自分にメリットがあるのですか」と、聞かれた時に、いま会長が話された事と、奥野元会長から言われたように、我々は汗をかいて、出来るだけ会員を増やして行く努力をして

行かなければと思います。

奥野元会長

この様な場所に倶楽部があるということは、大きなメリットだと思います。こういう場所に新しく倶楽部を設けることは出来ないと思います。東京駅に近く、皇居を正面に頂き、環境も良いので、それを前面に出し宣伝し、倶楽部と三菱地所との関係が安定しているということをはっきりと会員に示すことも大事である。言葉を変えていえば、日本倶楽部は昔、ここに土地建物を持っていた。それが、三菱地所が大きなビルを建てるといふ計画に協力して、その土地を提供して、今このビルに入っているわけですが、この土地が今どういう形になっているのか、日本倶楽部の財政的基盤はしっかりしているのだということをはっきりと会員に示すことが大事である。

中田広報委員長

財政の基盤については、昨年、トイレ施設が故障し、改修しなければならなくなりました。改修費用が約1千5百万円かかり、その費用をどうするかという問題に直面し財務委員会を中心に財政状況を調べた結果、具体的に申しますと、倶楽部の規則では入会金は全て積立金にしておいて、資本的な施設に対して支出するとなっているのに、この10年ほどは、毎年の経常収支の赤字を穴埋めするために入会金が使われていたので、いざ、トイレの改修工事をするのにも積立金が足りないというような事に気づきました。それで財政の抜本的な改正ということで、石原会長にもご苦勞戴いて会費の値上げを実施することになり、お陰さまで財政基盤が安定してきました。

奥野元会長

私は、日本倶楽部の借地権はどのような財産になっているのか最初はわかりませんでした。借地権について会員の方々にハッキリと説明して今後の財政基盤はこうなっているのだと、明確にしておく必要がある。

石原会長

この国際ビルはそう遠くない将来、建て替えが予想されていると思います。その際、これまでの経緯を踏まえて将来の運営を安定的に貢献出来るように権利関係をキチッと位置付けをすることが必要であります。この点についてはシッカリした財務委員長がおりますので、念頭において取り組んで行きます。

野村副会長

いま石原会長が申されましたように、日本倶楽部の会費を2014年1月から値上げさせて頂きまして、今年度の予算は財務状況の健全化の第一歩になりました。今まで入会金は積立てておらず、経常費に使っていた。それを今年から積立てることにしました。この2014年度というのは日本倶楽部の財政健全化の第一歩がスタートしています。これをずっと引き続いて行くという状態になっております。

北原会員

新入会員の懇親会を実施して欲しいですね。入会しても新人は何も知らないの、是非、実現を希望します。

石原会長

新入会員は既存の会員と馴染んで頂く必要があるの、検討を要します。入会して良かったと実感して頂くようにしたい。

奥野元会長

午餐会の運営を工夫して中身のあるものにして欲しい。

い。

中田広報委員長

他の倶楽部の午餐会は2つのタイプがあります。1つは講演会が主体のケース。もう1つは講演会プラス会員相互の会話です。

奥野元会長

講演会と会員相互の会話が良いですね。

中田広報委員長

午餐会に参加した会員が話を聞くだけでなく、テーブルごとに会話が出来たら良いとの意見が多くあります。

石原会長

その件は、会員委員会において、会員としての実感を持って頂けるか、運営方針について議論して頂いております。

中田広報委員長

いろいろお話を伺いましたので、次は、新年の抱負を1つ聞かせて頂いて、締めめに致したいと存じます。それでは石原会長よりお願い致します。

石原会長

この会は、歴史と伝統のある会ではありますが、率直に言いますと、最近では会の運営にいろいろ至らざるところがあったと思います。それは会員の減少ですが、今年から会の運営について各委員会の委員長さん、会員の皆さんのご協力での改善策を考えられておりますので、それが新年には全て花開くように、会員になって良かったと、更なる実感が湧いてくるようにして頂きたいと思っております。そうすれば自ら会員を増やして行けるのではと感じています。

とにかく若い人に入会して頂きたい。その辺も工夫しながら両方相俟って、会を魅力あるものにして行きたいと思っております。

中田広報委員長

有難うございました。それでは奥野元会長にお願い致します。

奥野元会長

日本国民が、この日本が昔、良い国だと思うのであれば良いのですが、敗戦後は侵略戦争をやった悪い国だと教えてきた。

私はそうではなくて、その時代、その時代に我々の先人は最善を尽くした。その歴史を正しく理解させる必要がある。やはり歴史というものをハッキリと教えて行かなければと思います。

具体的に言いますと、日本が戦争に負けた時に、日本に戦勝国の代表としてマッカーサーが来ました。そして、満州事変以来、日本は15年間に亘って侵略戦争をやったのだと、誰が計画し、誰が準備し、誰が実行したのかで極東国際軍事裁判を開いたのです。その裁判で、関係者が絞首刑になったり、禁固刑になったりしたわけです。そのマッカーサー自身が昭和25年に、日本は侵略戦争をやってはいない、日本は経済封鎖をされたのだ、生きていけないから、やむを得ず銃を持って立ち上がったのだと彼は認識を新たに、あの極東国際軍事裁判は間違いだと言っていたのです。

そして昭和26年に彼はアメリカの大統領との間で意見が違って召喚を命ぜられるのですが、そのような事情は日本に理解させていないのである。これを理解させて、満州事変についても日本は5族協和の王道楽土をつくるのだと、日本民族、朝鮮民族、満州民族、蒙古民族、漢民族、5族協和の満州国をつくらせたのです。

当時のアメリカ大統領は理解してくれていましたよ。

ところが、戦争が終わって、50年経ったら、中国等から言われて、国会で謝罪決議をしようという動きがあった。

1995年当時、たまたま社会党が政権を持っていたのですが、私はその様なことを認めたら戦争に参加して亡くなった方々は靖国の御霊ではないかということで、終戦50周年国会議員連盟をつくった。それで国会議員2百数十名が入ってくれましたが、私はその会長になりました。三権の長は靖国神社に参拝する請願運動があったりしまして、私は中国の大使館に出向いて大使に面会を求め長時間に亘り話しました。中国側は日清戦争等で中国と日本の戦いにより中国人が殺された、それが靖国に祀ってあるので靖国に参拝すべきではないという間違っただけのことを言っていました。しかし、その当時、中国本土は漢民族ではなく、満民族に支配されていたのです。

私はそういう歴史を正しく教えたいです。そして誇りある民族にしていくには教育に正しい歴史を教えるべく、そのためには文部科学省は考えるべきだということをお前は文部科学省当局にもお願いしております。アメリカが理解を新たにしているのに、折角の理解を国民に教えないような状態になっております。それぞれの日本民族は最善を尽くしてきたのであるという理解を国民はもっと誇りを持って、この国を大事にするような日本にしていきたいと思います。歴史教育を大事にしたいです。

その先輩を尊敬しながら、我々はさらに良い日本になるように努力していく、そういう空気をつくっていききたい。これが私は最大の願いです。

中田広報委員長

有難うございました。日本倶楽部で具体的にどう取り上げるかは難しい問題ですね。

奥野元会長

日本倶楽部はあまり遠慮しないで、日本倶楽部の考えを持ったらいいいと思いますよ。何故、日本人が靖国神社を参拝することがいけないのかということについては信教の自由もあるし、戦死した方々が靖国で会おうということで亡くなったことも事実ですから、我々は亡くなった方々に対する霊を慰める努力を欠いてはいけないくらいの信念を持つことは大切ですよ。

何もかもいわないのではなく、日本倶楽部の主張というものは、時には出るような努力があっても、私は然るべきではないかなと思います。

年に4回発行する会報にも、時には我々のその主張も掲載されても良いのではないのでしょうか。

中田広報委員長

有難うございました。それでは野村副会長にお願いします。

野村副会長

私は日本倶楽部に入会して本当に良かったと思います。やはり、ここで多くのいろんな機会に多くの会員の皆さんや先輩の方々と直接親しくさせていただいて、いろいろ教をいただいたり、良いお話を伺うことができたので、非常に日本倶楽部に入会させていただいて良かったです。

先程もお話にでましたが、新入会員の皆様がまだそこまで親しくなっていない方もおられるようですから、できるだけ交流を深めていくような努力をしていかなければならないと思っています。

今年から魅力ある倶楽部にしましょうということで、努力が始まっていますし、それから財務状態も健全化に向かって進んでいますから、「継続は力なり」で、新年度は、ますます推進していくというようなことができたらいいのではないかと思います。

中田広報委員長

有難うございました。それでは北原会員にお願いします。

北原会員

私は石原会長のお声がかかり、活性化委員会を発足させていただき、凄くアクティブにいろいろな会ができて良かったと思います。さすがにエリートの方々ばかりですから、非常に理論的で良い会だと思いますが、ただ、エリートばかりで、その下で動く兵隊がいないのですね。兵隊がいないと、病院でいけば診断はできるのですが、診療ができない。働く兵隊がいないと何もできない。従って若い会員の方々には動いていただける方が多いので、その方々を集めて、実際に診療でいう、治すという方向で運営していただかないと、頭デッカチになってしまい、実際には良い会なのですから、どうやってそれが機能化されることが大事ではないでしょうか。

中田広報委員長

皆さん立派な方々ですが、足腰が弱いということですね。若い会員に入会していただき、動いていただけるような倶楽部にしなければなりませんね。

石原会長

例えば、役所でいえば、OBになってから入会される方が多く、民間の方は若い方が入会していただいておりますが、やはり若い人達を大事にして、活躍の場を考えるということですね。

中田広報委員長

とにかく、会員を増やして、会の活動を活発化することが、何よりの基本ですね。

石原会長

現在の会員の方々には、1年間に必ず1名をご紹介していただくという努力をしていただけましたら有難いですね。

中田広報委員長

今日は奥野元会長から「活」を入れられました。おそらく新年号に掲載できるのは、せいぜい4ページ位かなと思います。従って、いろいろお話を伺った中で、新年号に相応しい話題を選んで、纏めさせていただきたいと思います。

せっかく良いお話が出たので、これから会長や事務局と相談して、これの会報版ではなくて、今日の座談会の詳しいものを作成して、オープンにせず、関心のある方々に読んでいただくということができれば良いのかなと思っています。

本日はご多忙の中、座談会にご出席いただき有難うございました。

以上